

# 私が「美術をすること」を通して 考えたこと、学んだこと

## ～マンガを通して「学び」の本質を知ろう～

講演者

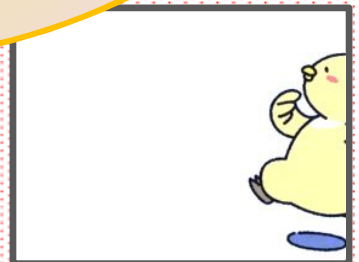
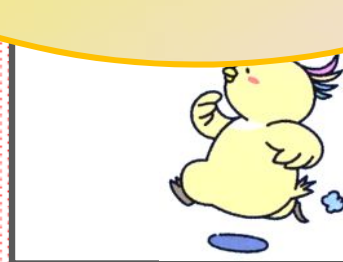
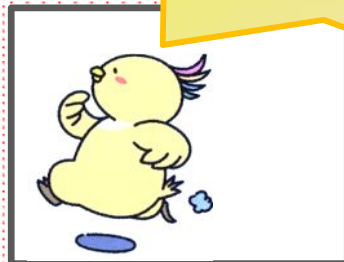
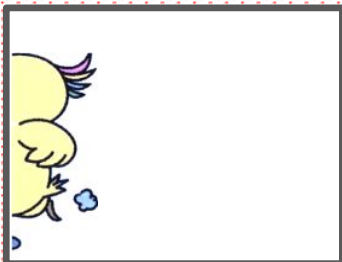
名古屋市立志段味中学校教諭

塚越 勇吾 先生



- 「疑う」ために学べ
- 「学び」のターニングポイント：テーマとしての「マンガ」との出会い
- たどり着いた「定義」を信じる
- 自分の「武器」を持つ
- 価値観を揺さぶれ
- 「観る」、「聴く」、そして「よく考える」
- 言葉の表記から考える：まんが（漫画）・マンガ・MANGA・そして萬画
- 今、ここにあるための「歴史」：時代の空気の反映としてのマンガ
- 敢えて、意図的に：絵の安定の上に成り立つデフォルメ
- 比べよ、されど優劣の問題ではない。
- 経験が解釈を与える：抽象から具象へ
- すべてのものには文法が宿る
- 不可視のものを可視化する。マンガ独自の表現：コマ・オノマトペ・漫符・吹き出し
- 実践してみる：マンガを描く授業の現場から
- 私が出会った印象的な生徒たち：先生はこんな生徒に惹きつけられる
- 実技系が苦手な人へ：教育の現場からのアドバイス

※ 講演内容は変更になる場合もあります。



日時：3月24日（土）10時00分～11時30分（予定）

場所：河合塾西館9階

主宰：日本マンガ学会

河合文化教育研究所 メディアカルチャー研究会

対象：中学生・保護者・美大志望者 その他



参加ご希望の方は下記アドレスまでご一報ください。

zigomar627@yahoo.co.jp

日本マンガ学会 名古屋マンガ文化研究部会 小林 貞弘